



日本骨髄バンクの現状（平成 29 年 2 月末現在）

	1 月	2 月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,651	2437	469,900	693,970
患者登録者数	229	268	3,524	50,368
移植例数	72	118	—	20,427

■2月の年代別ドナー登録者数（現在数）

10代	3,640人
20代	70,184人
30代	139,802人
40代	200,991人
50代	55,283人

■2月の20歳未満の登録者 393人

■2月の区分別ドナー登録者数：献血ルーム／708人、献血併行型集団登録会／1,660人、集団登録会／20人、その他／49人

■2月末までの末梢血幹細胞移植（PBSCT）累計数：275件

注）数値は速報値のため訂正されることがあります。

1 「登録申込書に献血者コード記入」開始に伴うチャンス改訂について【予告】

昨今、住所不明によりコーディネイト対象とならないドナー登録者の方が増加しています。

その抑制対策の一環として、献血経験のあるドナー登録者の方については、日本骨髄バンクや日本赤十字社からの郵便物（バンクニュース等）が住所不明で返送された場合に限り、必要に応じてご本人の献血者情報を参照し、骨髄バンクドナー登録情報（住所、氏名、電話番号）を更新することになりました。

5月以降、献血経験者で骨髄バンクのドナー登録を希望される方には、可能な限り登録申込書に献血者コードを記入していただきます。これに向けて、ドナー登録者のしおり「チャンス」を改訂します。運用方法等の詳細は、説明員の方へ次号 MONTHLY JMDP でお知らせします。

2 卒業記念講演「語りべ講演会」各地で開催

卒業シーズンを迎え、卒業記念講演会として「語りべ講演会」が各地で開催されています。今年度は看護学校5校、看護系高校1校で行われました。

移植を受けられて元気になった移植経験者や提供ドナーの体験談・エピソードなどを聞いて、これから医療現場に巣立っていく学生の皆さんから「命の尊さを感じる機会となった」「医療従事者としての役割を再認識する機会となった」との声をいただいています。

「語りべ講演会」は年間を通じて全国で行われています。平成28年度は学校や企業・団体等で93回開催され、ご好評をいただいています。講演者の謝礼や交通費は当法人が負担します。講演時間や内容等は個別に相談させていただきます。

本件に関するお問い合わせは広報渉外部（03-5280-8111）までお願いします。

3 ミュージカル「明日への扉」公演の滋慶学園グループへ感謝状贈呈

骨髄移植推進キャンペーンミュージカル「明日への扉」を公演する学校法人滋慶学園グループの系列校の卒業式が3月8日～21日に仙台、東京、名古屋、大阪、福岡で行われます。「明日への扉」は、同グループ系列校・大阪スクールオブミュージック専門学校により1994年に初演されました。以来、公演や寄付を通じて長年にわたり骨髄バンクを支援していただいています。各卒業式会場では、卒業生から寄付金の贈呈があり、当法人から卒業生の代表に感謝状を贈呈します。

4 第 39 回日本造血細胞移植学会総会開催

「第 39 回日本造血細胞移植学会総会」が 3 月 2 日（木）～4 日（土）の 3 日間、島根県松江市で開催されました。日本骨髄バンクは「地区代表協力医師会議」を併催したほか、総会会長の取り計らいで「移植医療関係者意見交換会」が行われ、医師・支援団体・骨髄バンク間でドナーリクルートをはじめとする活発な意見交換が行われました。展示ブースでは「春ちゃんは元気です」の原画パネル展示を行い、講演会の案内チラシやリーフレットを配布しました。

また、一般社団法人日本造血細胞移植学会主催「造血幹細胞移植推進事業フォーラム」には約 180 名の参加がありました。最終日には「市民公開講座 ～患者会に参加しよう～」が行われ、移植を受けられた患者さんや二度の提供を経験されたドナーさんの体験談、そして患者会の活発な活動が紹介されました。

第 40 回学会総会は、2018 年 2 月 1 日（木）～ 3 日（土）札幌市で開催されます。

※造血幹細胞移植推進事業フォーラムの詳細は、日本造血細胞移植学会ホームページ (<http://www.jshct.com/info/2017forum.shtml>) をご参照ください。

5 患者とドナーをつなぐサンクスレター（お手紙）に関する解析報告

「第 39 回日本造血細胞移植学会総会」2 日目のプログラムで、「非血縁者間造血細胞移植におけるサンクスレター（※）に関する解析」が、千葉大学医学部附属病院 輸血・細胞療法部の酒井紫緒先生より発表されました。酒井先生は一般社団法人日本造血細胞移植学会（以降、JSHCT）の認定 HCTC（造血細胞移植コーディネーター）でもあります。

本研究は、2010 年から 2015 年まで当該施設で非血縁者間骨髄移植を行った 59 例を対象として行われました。当該施設においては、2015 年より JSHCT 認定 HCTC を配置し、移植前の面談時にドナーの提供に至るまでの過程を患者に説明した上で、ドナーへの手紙（サンクスレター）を“移植前”と“移植後”に送付することを推奨しています。

治療に関連して様々な合併症が生じる移植医療において、移植前に手紙という形で自身の気持ちを言葉で表現することは、「患者自身の記録となり闘病生活を肉体的・精神的に支える一助となり、さらにドナーにおいても提供の達成感を支える事ができる」とのことでした。

当該施設におけるサンクスレターの送付率の向上には、HCTC の果たす役割が大きいとされています。

そして、「患者とドナーを唯一つなぐ事のできるサンクスレターは非血縁者間造血細胞移植領域で大きな意味を持っている。移植が家族や社会の絆を深める機会となるようレシピエントの『ありがとう』を患者家族とともに伝えたい」とコメントがありました。

※MONTHLY JMDP 平成 26 年 5 月 15 日号で、移植施設のスタッフからのドナー宛の手紙として大阪市立大学医学部附属病院から提案された「ドナー宛サンクスレター」についてご紹介しましたが、本研究は患者さんからドナーへのお手紙（移植/採取から 1 年以内に 2 往復まで）を指しています。

6 非血縁者間末梢血幹細胞採取施設の認定について

下記の施設が新たに非血縁者間末梢血幹細胞採取施設として認定されました。

■非血縁者間末梢血幹細胞採取施設

大阪府立成人病センター（3/25より大阪国際がんセンターに名称変更）

これにより末梢血幹細胞採取認定施設数は97施設となりました。新規認定施設は、当法人ホームページでもご覧いただけます。

HOME>患者さんへ>移植認定病院、およびドナー登録されている方へ>面談施設一覧

7 当法人の会議等開催予定

◆会議の傍聴をご希望の方は、事前に当法人総務部までお申し込みください。

会議名	公開・非公開	開催予定
通常理事会	公開・一部非公開	3月24日（金）17時半～19時半 廣瀬第2ビル地下会議室
業務執行会議	公開・一部非公開	4月17日（月）17時半～19時半 廣瀬第2ビル地下会議室
業務執行会議	公開・一部非公開	5月18日（木）17時半～19時半 廣瀬第2ビル地下会議室

コーディネーター関係者のコーナー

以下は、医師およびコーディネーターの皆さまを対象としています。

8 「日本骨髄バンク 移植医療関係者意見交換会」および「地区代表協力医師会議」開催報告

前述の学会総会中、3月4日（土）に「日本骨髄バンク移植医療関係者意見交換会および地区代表協力医師会議」が開催されました。

非公開の「地区代表協力医師会議」では、ドナー適格性判定に関する相談事例、採取事例に関する検討が行われました。

また、公開の「移植医療関係者意見交換会」は約1時間、約70名が参加しました。

コーディネーター期間短縮のため、東北地区で積極的に県外のドナーを受け入れるようにしたことの報告や、骨髄採取を依頼する際にドナーの希望を踏まえつつ空いている施設を活用して調整する方法の提案をいただきました。

さらに、若年ドナーのリクルートについて、医療系の学校および高校や大学での取り組み方法の紹介など活発な意見交換が行われました。

過密な学会総会プログラムの中、近年はこのような時間を確保することができませんでしたが、今回は総会会長である吾郷浩厚先生のご提案とご配慮によりこのセッションが設けられました。

移植医療には医療関係者だけでなく多くの方々の協力が不可欠です。みなさまの生の声を今後の骨髄バンク事業に活かしていく所存です。



9 物流業者による造血幹細胞の運搬に関するアンケートのお願い

このたび、ある施設において、末梢血幹細胞の運搬の準備段階でトラブルが発生しました。

これは運搬を請け負う日本通運㈱の社内連絡ミスで、保冷剤が準備されていなかったことによるものです。

そこで、物流業者による運搬の現状を把握するために、アンケート調査を実施します。つきましては、アンケート（移植施設向け・採取施設向け）をお送りしますので、ご協力をお願いします（3月31日までにメールまたはFAXでご回答ください）。

なお、末梢血幹細胞の運搬準備にあたって、冷蔵か常温かの選択は移植施設が主体となって決定し、採取施設に依頼してください。

骨髄・末梢血幹細胞・ドナーリンパ球運搬時の留意点は、骨髄バンクのホームページに掲載されていますので、併せてご確認ください。

HOME>医師の方へ>患者主治医の方へ>骨髄・末梢血幹細胞・ドナーリンパ球 運搬時の留意点

■末梢血幹細胞の場合の留意点（再掲）

必ず下記をご確認ください。

- 1日目の末梢血幹細胞を2日目に運ぶ場合は、採取施設で保管の準備があるため、事前に依頼してください。

※2日分をまとめて運ぶ場合の保存と運搬時の温度管理

NMDP のプロトコールでは、「2日目にまとめて受け取る場合、1日目に採取した末梢血幹細胞は採取施設において2~8℃で保存し、運搬時の温度も2~8℃に保つこと。但し、移植施設からの要望があれば室温での運搬も可」とされています。

当法人「非血縁者間末梢血幹細胞採取マニュアル 暫定版」

P21. 6.10「1日目に採取された末梢血幹細胞を1日保存する場合の条件について」

及びP26 10.3「末梢血幹細胞の保存と運搬時の温度管理について」をご参照ください。

- 冷蔵で運搬することとしている施設において、前泊等の理由で保冷剤の持参が難しい場合には、採取病院で準備が可能か否か相談します。採取病院でも保冷剤を準備できない場合には、現地で氷を買う等の代替策を検討してください。
- 航空機で2往復する場合であって運搬担当者が異なる場合は、それぞれの運搬証明書が必要です。移植調整部に申請する際にその旨明記してください。

10 コーディネート期間短縮に向けた開始ドナー人数増加トライアルについて

現在、患者さんが骨髄バンクに登録してから、1人のドナーを選定して移植を行うまでに、約11人（※1）のドナーのコーディネートを行っています。患者登録から移植までの中央値が147日（2016年実績）であり、コーディネートにかかる期間が長期にわたっています。

このたび、コーディネート期間を短縮化するための取り組みの一環として、現状で開始ドナー人数が最大5人となっているところを10人に増やした場合、コーディネート行程における影響や、コーディネート期間の短縮化が可能かどうかを検証するためのトライアル事業を厚生労働省と協議を行いながら実施することになりました。

この事業は4月1日から5月31日の間に本事業を実施する施設（※2）において、骨髄バンクに患者登録する方が対象になります。ただし、トライアルに参加しない他の患者さんに影響がないようにするため、HLA型（遺伝子型）のA座、B座、C座、DR座が全て適合したドナーが45人以上いる場合に参加可能です。

この取り組みは、今後、開催される国の造血幹細胞移植委員会（審議会）で報告する予定です。

（※1）過去10年間の実績の中央値より算定

（※2）拠点病院（9施設）および国立がん研究センター中央病院（「骨髄バンクコーディネート期間短縮とドナープールの質向上による造血幹細胞の最適な機会提供に関する研究[福田班]の実施施設」の合計10施設）

11 「ドナーのためのハンドブック」（第4版）の発行について

「ドナーのためのハンドブック」を改訂しました（第4版）。今回の改訂では文言等の修正やデータ更新のほか、新たに非血縁者間末梢血幹細胞採取の集計データ（資料編）を追加しました。調整医師・採取責任医師・コーディネーターの方にお送りします。

※ 変更点は同封の新旧対照表をご参照ください。

■運用

- ・改訂版は第3版が無くなり次第、使用を開始します。
- ・使用開始は3月下旬以降となる見込みです。コーディネーターは面談時に新旧のハンドブックを持参し、ドナーの方が持参された版でご説明をお願いします（差し換え不要）。

12 調整医師委嘱状の送付について <調整医師の方へ>

調整医師の委嘱については、平成28年度より自動更新となりましたが、平成29年度も手続きが必要で更新書類をご返送いただいた先生方には、2月下旬より順次、委嘱状をお送りしています。

まだ更新書類をご返送いただいていない方はお早めに返送をお願いします。なお、異動先で引き続きご協力いただける先生方には異動後に手続き書類を郵送します。